



営農NEWS



麦栽培における播種前の準備作業について

茨城県の麦栽培は、水田転作畑における作付面積が多く、残りが畑で栽培されています。

麦種では全体の 6 割弱が小麦、ついで六条大麦、二条大麦の順となっています。

品種は、小麦で長く栽培させてきた「農林 61 号」に替わって、コムギ縞萎縮病抵抗性を持ち、倒伏しにくく、日本めん用として汎用性の高い「さとのそら」へ全面的に切替えが行われています。また、六条大麦では麦茶用の高品質品種「カシマムギ」に加えて、オオムギ縞萎縮病に強く、穂首折損しにくい高品質の「カシマゴール」が作付面積を伸ばしています。

このような中で、**麦高品質栽培の大きな課題の一つとして、作付圃場における排水、**

湿害対策が必須の作業となっています。

また、種子伝染性病害を防除する種子消毒も、安定生産のために必要な準備作業となります。

小麦や六条大麦で新品種が導入されるのを機会に、再度、高品質で安定した麦生産を強力に推進する必要があります。

1. 圃場の準備

- 1) 圃場の排水性を図るためには、本暗渠を適正に管理して排水機能を維持することが大切です。また、本暗渠と直交するように補助暗渠を施工したり、サブソイラ等で心土を破碎して透水性を高めましょう。
- 2) 地表水を排水するために、圃場周囲には額縁状の排水路（額縁明渠）を施工します。さらに、圃場内においても一定間隔で小明渠を作成し、周囲明渠に連結して排水性を高めます。
- 3) 耕土の酸度は pH(KCL) 5.5～6.0 になるように、苦土石灰または消石灰を施用して矯正しましょう。
- 4) 土作りのため、10a あたり、堆肥を 1t または稲わら 500 kg 程度を土壌混入します。また、有効態リン酸で乾土 100g あたり 10mg となるようリン酸資材を施用しましょう。
- 5) 深耕 15cm 前後のロータリー耕を 2 回かけるか、ロータリー耕後にドライブハロー等で碎土を行いましょう。なお、碎土は 2cm 以内の土塊が 70% 以上になるよう丁寧に行いましょう。

2. 種子消毒

麦で種子伝染する重要な病害として「なまぐさ黒穂病」、「裸黒穂病」、「斑葉病」、「条斑病」などがあります。これらが発病すると生育不良や品質の低下、大きな減収を招くばかりでなく、販売も困難となる場合があります。播種を行う前に、種子の消毒をしておく必要があります。

【種子消毒の方法】

- 1) 従来から温湯を利用した熱による消毒法として、①風呂浸漬法、②冷水温湯浸法などがあります（具体的処理法は省略します）。
- 2) 薬剤を利用した種子消毒法として、下記を参考にしてください。

表 1 麦類の主な種子消毒薬剤と処理法ならびに対象病害（平成 27 年 11 月 4 日現在）

薬 剤 名	処 理 方 法	なまぐさ 黒穂病	裸黒穂病	斑葉病	条斑病
トリフミン水和剤 ベフラン液剤 25	種子重量の 0.5% 種子粉衣	○	○	○	
	250～500 倍液に 10～30 分間の種子浸漬			○ (小麦を除く)	
	1,000～2,000 倍液に 10～30 分間の種子浸漬	○			
ベンレートTコート ホームイ水和剤	乾燥種子 1 kg あたり原液 3～5ml 種子吹き付けまたは塗沫			○ (小麦を除く)	○
	乾燥種子重量の 0.5% 種子粉衣	○	○	○	○
	種子重量の 0.5～1.0% 種子粉衣	○		○	

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040